

伊丹福音ルーテル教会 顕現後第四主日礼拝のしおり

2022年1月30日

前奏

招きのことば：詩編 71 編 1-6 節

主よ、御もとに身を寄せます。とこしえに恥に落とすことなく恵みの御業によって助け、逃れさせてください。あなたの耳をわたしに傾け、お救いください。

常に身を避けるための住まい、岩となり わたしを救おうと定めてください。

あなたはわたしの大岩、わたしの砦。わたしの神よ、あなたに逆らう者の手から悪事を働く者、不法を働く者の手から わたしを逃れさせてください。

主よ、あなたはわたしの希望。主よ、わたしは若いときからあなたに依り頼み母の胎にあるときから あなたに依りすがって来ました。

あなたは母の腹から わたしを取り上げてくださいました。わたしは常にあなたを賛美します。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、かぎりなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

私たちはつい目先の安心や、表面的な解決だけを求めます。しかしイエス様は私たちの心深くに巣くう、恐ろしくもみにくい自己中心の罪を赦すために、十字架にかかって死んでくださいました。イエス様のゆえに神様から罪赦されて新しいいのちにあずかるとき、誘惑や苦しみの力を受けても押しつぶされることのない奥深い確信をいただきます。そして自分だけではなく隣人のために幸せをつくる価値ある生きがいに導かれます。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐために、なお緊張感を保っていかなければなりません。その中でも 御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして 安心して 生き生きと生きる日々を与えてください。

この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：第1コリント13章1-13節

たとえ、人々の異言、天使たちの異言を語ろうとも、愛がなければ、わたしは騒がしいどら、やかましいシンバル。たとえ、預言する賜物を持ち、あらゆる神秘とあらゆる知識に通じていようとも、たとえ、山を動かすほどの完全な信仰を持っていようとも、愛がなければ、無に等しい。全財産を貧しい人々のために使い尽くそうとも、誇ろうとしてわが身を死に引き渡そうとも、愛がなければ、わたしに何の益もない。愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜ぶ。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。愛は決して滅びない。預言は廃れ、異言はやみ、知識は廃れよう、わたしたちの知識は一部分、預言も一部分だから。完全なものが来たときには、部分的なものは廃れよう。幼子だったとき、わたしは幼子のように話し、幼子のように思い、幼子のように考えていた。成人した今、幼子のことを棄てた。わたしたちは、今は、鏡におぼろに映ったものを見ている。だがそのときには、顔と顔とを合わせて見ることになる。わたしは、今は一部しか知らなくとも、そのときには、はっきり知られているようにはっきり知ることになる。それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。

福音書朗読：ルカによる福音書4章21-30節

そこでイエスは、「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と話し始められた。皆はイエスをほめ、その口から出る恵み深い言葉に驚いて言った。「この人はヨセフの子ではないか。」イエスは言われた。「きつと、あなたがたは、『医者よ、自分自身を治せ』ということわざを引いて、『カファルナウムでいろいろなことをしたと聞いたが、郷里のここでもしてくれ』と言うにちがいない。」そして、言われた。「はっきり言うておく。預言者は、自分

の故郷では歓迎されないものだ。確かに言うておく。エリヤの時代に三年六か月の間、雨が降らず、その地方一帯に大飢饉が起こったとき、イスラエルには多くのやもめがいたが、エリヤはその中のだれのもとにも遣わされないで、シドン地方のサレプタのやもめのもとにだけ遣わされた。また、預言者エリシャの時代に、イスラエルには重い皮膚病を患っている人が多くいたが、シリア人ナアマンのほかはだれも清くされなかった。」これを聞いた会堂内の人々は皆憤慨し、総立ちになって、イエスを町の外へ追い出し、町が建っている山の崖まで連れて行き、突き落とそうとした。しかし、イエスは人々の間を通り抜けて立ち去られた。

讚美歌 234A 番

1. 昔、主イエスの 播きたまいし いとも小さき 生命の種
芽生え育ちて 地のはてまで、その枝を張る 樹とはなりぬ。
2. 歴史の流れ 旧きものを 返らぬ過去へ 押しやる間に、
主イエスの建てし 愛の国は 民より民へ ひろがりゆく。
3. 時代の風は 吹きたけりて、思想の波は あいうてども、
すべての物を 超えてすすむ 主イエスの国は 永久(とわ)に栄えん。
4. 父なる神よ、み名によりて 世界の民を ひとつとなし、
地をば あまねくみ国とする みちかいを とく 果たしたまえ。 アーメン

説教：「今日、実現した」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

先週に続きルカによる福音書 4章からのお話です。イエス様は公けの働きをお始めになりました。バプテスマのヨハネから洗礼を受け、荒野で誘惑を退けてから、カファルナウムという町など、ガリラヤ湖畔の西側にひろがるガリラヤ地方の諸会堂でお話をしました。イエス様の評判が周りの地方一帯にひろまって 4章 15節には「皆から尊敬を受けられた」とあります。そして、お育ちになった故郷のナザレの会堂で、ある安息日にお話をされたとき、ナザレの町の人たちはそれを聞いて驚きました。ほめたかどうかはわかりません。小さいときから知っているヨセフさんの家のイエスくんが、大きくなって自分たちの会堂で聖書のお話をして、さらにその聖書の預言していたことが今日実現した、すなわちご自分が救い主であるというのですから、そこにいた人は驚いたようです。そして、「この人はあのヨセフの子じゃないか」と互いにかけていました。

イエス様は彼らの心を見抜いておられました。人々はイエス様のことを救い主なのかどうか疑っていましたが、ほかのところでは華々しく活躍しているかもしれないけれど、私たちはイエス

様が子どものときから知っているし、その大工をしていた家族も知っている。ほんとうに救い主なのだろうか。また、カファルナウムなどのガリラヤ地方の町や村で病気を治したり悪霊を追い出したりしたのなら、この故郷のナザレの町でも私たちの目の前で見せてくれたらいいのに、そうしたらイエス様はメシアであると信じてもいいかなあ、というような気持ちです。イエス様はそのような心を見抜いておられました。

もともと神様は人類が罪に落ちた時、罪を赦し新しいいのちを与える世界の救い主を送ることを約束してくださいました。そしてイスラエルの人々を選んで、その備えをし、待ち望むようにして下さったのです。その救い主イエス様は受肉して歴史のただ中で生身の人間になってくださり、人々の間で育って成長したことを教えています。イエス様が人になって下さったからこそ、救い主として、私たち人間の代りに苦しんで、私たちの罪を代りに背負って十字架で死んでくださいました。

しかし、本当に神様から遣わされた救い主であるイエス様が、人間として生まれ育ったのか、と疑問を持つ人がいます。また、ナザレの人々は反対に、この自分たちがよく素性をしていいるイエス様が本当に救い主なのか、と疑問をもっていたのです。イエス様は彼らに対して、「預言者は故郷では歓迎されないものだ」とおっしゃいました。預言者は故郷でもそうでない世界でも同じように神の言葉を語り、神のみ旨を行います。しかし故郷の人々は自分たちにせつかくのよしみで何か特別にしてほしいと願い、それが満たされないと手のひらを返したように態度を変えて排斥するということでしょう。イエス様はナザレの人々の心を見抜いておられます。

ルカによる福音書を読むと、イエス様は出会う人々の悔い改めを大切にされました。イエス様と言う真理のお方に出会うとき、私たちはイエス様が私のすべてをご存じであることを知ります。イエス様がすべてを知ってくださることは、ある意味でたいへん安心なことです。どんなときでもイエス様は共にいてくださるということです。ところが、私たちの自分中心な罪をご自分の十字架の苦しみをもってお赦しくださるために、イエス様が私たちのほんとうの、自己中心なすがたをお示しになるところがあります。真理の光に照らされて人はそんな自分がかっかりしたり、反対に神様に怒りをもったりするのです。

ナザレの人々はイエス様への疑いを見抜かれてどうしたのでしょうか。彼らは怒りました。28節を見ると、それまで静かに座ってお話になっていたイエス様に視線を注いで聴いていた彼らは、憤慨して総立ちになり、イエス様を高台の上にあった町の淵の崖まで連れて行って突き落そうとした、とあります。イエス様は人々の間を通り抜けて立ち去られたのでことなきを得たのですが、それにしてもイエス様の言葉を聞いてふるさとナザレの人々は驚くほど激しく反応しました。

イエス様は会堂で彼らに、彼らのよく知っている聖書の中から、故郷ではなく異邦人とのかわりで働きをすることになったふたりの偉大な預言者のことを語りました。毎週聖書を朗読し

ていたナザレの会堂の人々にはよく知られた預言者エリヤと預言者エリシャの物語です。エリヤは列王記上 17 章、エリシャは列王記下 5 章にあります。

預言者エリヤは悪い王、アハブへの神様の裁きを告げました。神を敬わないアハブ王は不当に民の財産を奪いました。エリヤが伝えたのは、これから雨が降らないという裁きでした。実際に三年半雨が降らず、土地は枯れ、一帯は飢饉で苦しみました。そのとき神様はエリヤをイスラエルの人のところではなく、地中海に面する異邦人の地、シドン地方のサレプタの貧しいやもめとひとり息子のところに遣わしました。そこで奇跡的に養われ、病気で死んだその息子を生き返らせました。

預言者エリシャはエリヤの後継者でした。イスラエルの敵国であったシリア軍の司令官ナアマンが重い皮膚病で苦しんでいたとき、その妻の召使いだったイスラエル人の少女の紹介があって、ナアマンはわらをもすがる思いでイスラエルの預言者エリシャを訪ねました。エリシャの言う通りにするとナアマンの病気は治ってきれいな皮膚を取り戻しました。ナアマンは異邦人でしたが、まことの神様を信じて帰りました。

ナザレの人々の怒りは何でしょうか。礼拝のあと突然に、どうしてイエス様を排斥しようと思うほど怒りに燃えたのでしょうか。それは固いイスラエルの民族意識によります。神様はイスラエルを救い主を待ち望む民とされました。しかしイスラエルの民は歴史の中で神様から離れて神様の裁きを受け、遠い異国に捕虜にされたことがありました。それ以来神様の救いを信じて待ち望み、独立を得て神殿を立て直しました。神の民である自分たちを救う救い主が来たら、まずイスラエルを救ってくださり、あの偉大な王様ダビデのような世界一の王国を作って、イスラエルを諸国の支配者とする、いつしかそんなことを実現する救い主を待つようになっていました。

しかし自分たちの町から、救い主を自称するイエス様が出てきたと思ったら、イエス様はイスラエルの人々ではない人、つまり異邦人にも祝福があると語り始めたのです。救い主はイスラエルの民を偉大な民にする救い主ではないこと、そして、世界の人を罪から救う救い主であることを語り始めました。そして、これまでは救いに入らないと思っていた異邦人が、むしろ祝福されるというお話しをするイエス様を、語るままにさせることはできなかったのです。彼らはイエス様を、自分たちが守るべきイスラエル民族の信仰を損なう危険な思想を持った人物だと判断したのです。

イエス様へのこの怒りは、やがてイエス様を異邦人の手によって十字架刑にしてもらったイスラエルの指導者たちの怒りと同じものです。律法学者やパリサイ人と言われる人をはじめイスラエルの人々が期待していた救い主は、国を立て直して強い王となって君臨し、自分たちの自尊心を高め、生活をよくしてくれる救い主でした。しかし、イエス様は 5 章 32 節でおっしゃっているように、罪びとを招いて悔い改めさせるために来られた救い主でした。十字架にかけ

てイエス様を排斥したイスラエルの人々の心は、自分の待っている救い主の姿を自分で決めて、それにそぐわない救い主は神様がお遣わしになった方であっても抹殺する恐ろしい心です。

イエス様はその後もかわらず神様にご自分を送られたのは、罪びとを招き、彼らを赦して神様の子どもにするためだと教えられました。イエス様は当時の指導者たちの本当の姿を知っておられ、彼らの心がかたくななことを示しました。そして、当時罪びとと呼ばれて救いからは遠い人々と思われていた人々に親しくみわざをなさいました。

するとイスラエルの人だけでなくローマ人やサマリア人が悔い改めてイエス様を信じました。世界の人々の救い主であるからです。7章にはローマ軍の百人隊長がイエス様の権威についてよく理解しています。イエス様はナインという町で葬儀に出くわしたとき一人息子を亡くしたやもめの母親に「もう泣かなくてもいいですよ」とおっしゃって、預言者エリヤがしたように息子をよみがえらせてくださいました。10章ではよきサマリア人のたとえをなさっています。イスラエルの隣の国なのに対立していたサマリア人の方が、救い主イエス様の働きがよくわかったことは17章でもわかります。イエス様はサマリアとガリラヤの間の村で10人の重い皮膚病の人を癒されました。それは異邦人であったナアマン将軍の病気でした。そのとき皮膚病をいやされてイエス様のところに感謝をもって賛美しながら帰って来たのはサマリア人だけでした。イエス様は罪の赦しを得させるために、失われた罪びとを探し出して救う救い主です。

イエス様はあなたを罪の赦しを得させるために悔い改めに導かれます。自分で理想の幸せやこうありたいという幸福を描いて神様にそのままを祈りの中でお話しすることはよいことです。あなたを大切にあなたのためにイエス様をお与えくださった神様はそれを実現してください。しかしそれはイエス様の与えてくださる恵みの実としての実現です。自己中心でわがままな私たちは何が幸せかを正しく描いていないかもしれません。イエス様は私たちの自己中心でわがままな罪を示します。神様を愛さず、隣人にも愛のない姿、自分を守り、恐れと不安でいっぱいな罪の姿です。私たちが悔い改めてその罪を赦してくださるイエス様を信じ、神の子として新しいいのちを受けるためです。イエス様の救いは、今日み言葉を聞いたとき、実現しました。自分本位の夢をイエス様を利用して実現するのではなく、イエス様によって罪赦された神の子として、自分の人生をかけて世界に神様の赦しといのちを伝えるあなたの幸せを、神様は恵みの実としてあなたに実現してください。この一週間も、あなたを生活の場に安心と喜びをもって押し出してください。

そこでイエスは、「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と話し始められた。ルカ 4:21

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

讚美歌 324 番 献金 献金感謝の祈り

1. 主イエスは救いを もとむるこの身に ゆたけき恵みを 注がせたまえり
※ いよいよわが主を 愛せしめたまえ
2. ひさしくそむきし この身を見捨てず すべてを赦して あわれみたまえり ※
3. み恵み受くべき いさおなき身を かくまで恵みて 救わせたまえり ※
4. この身とたまとを ことごとささげて 尊き御名をば ひたすら讚(ほ)めつつ ※ **アーメン**

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあげさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讚美歌 543 番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊の力よ、あぁみ栄えよ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。 **アーメン**

後奏